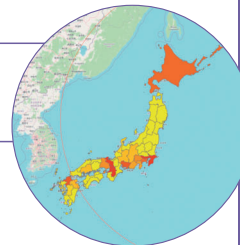


# 身近な課題に取り組み生きる力を育む 地域で育むキャリア教育



## データを活用し 地域探究に 根拠と論理を

第27回  
(特別編)

RESASの活用

取材・文／江森真矢子

高校生が地域をフィールドに学び、キャリアを切り拓く力をつける実践を紹介してきた本連載は、開始から6年目を迎えた。開始当初と比べ、高校生自らがブレイヤーとして地域を盛り立てる実践が増えている。一方、活動はするが深い学びに繋がらない、という悩みも生まれているようだ。

今号では、地域データの活用を打開策のヒントにすべく、地域経済分析シ

ステム「RESAS(リソース)」(下記コラム)を取り上げる。RESASは地方創生を支援するため、内閣官房と経産省が開発したWEBサービス。人口、産業、観光、福祉など数十種のデータを時間軸、空間軸で抽出できる。

取材をしたのは5年前から授業に取り入れている岡山県立倉敷商業高校の川崎好美先生。内閣府の求めに応じ、RESASを活用する授業案教材開発にも携わった先生だ。また、地域探究を牽引してきた浦崎太郎教授(大正大学)をはじめとする有識者、教員が登壇した「RESAS de 地域探究シンポジウム」からも、学びを深めるための考え方を紹介したい。

**根拠に基づいて  
ものを言えるように**

川崎先生が授業にRESASを取り入れた始めたのは、商業科目での探究的な学習において、底の浅さを課題に感じていたときだ。「地域活性化に繋がる、地元産物を使った商品開発をしていましたが、活動あつて学びなしになっていかなかったか。生産高の推移を見て原材料の背景を知るなどすれば、商品

の説得力は増し、生徒の学びも深くなったはず」と振り返る。根拠をもってものを言うことや知識の重要性を再認識し、数字で倉敷を知る教材を作成。商業諸科目に加え、総合的な探究の時間でも地域データを読み解く授業を行っている(左ページコラム)。

「これから必要な、生徒自身が納得解を導き出すような学びの入り口として、操作の簡単なRESASは適しています。データでものを考える癖がつけば、他のデータを自分で探しにいけばいい。英単語がわからなかったら調べますよね? 地域課題に取り組み際にもまずは事実を確認するようにしてもらいたいと思っています」。電子辞書のように使いこなしてほしいというのが川崎先生の願いだ。

**地域と教科、学問との  
有機的な結合を**

シンポジウムで「高校生の地域プロジェクトを見ていて気になる点がいくつかあります」と発言したのは浦崎先生。最初のアイデアがすべてになり、プランの妥当性を客観的に評価する視点が欠けていること。プランを立てはするが

2021年2月、地域経済分析システム「RESAS(リソース)」の教育活用に関するシンポジウムが開催されました。政府が地方自治体の政策立案や地域活性化に生かす目的で開発したRESASが今、高校で活用され始めています。今後の地域探究のあり方を、シンポジウムと倉敷商業高校の取組から探ります。

### 行政・民間のビッグデータを無料で誰もが活用できるRESAS

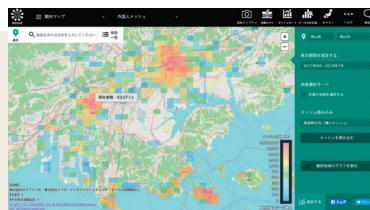
宇野雄哉氏(内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 参事官補佐)

RESASは地方創生のデータ利用の入口として、地域経済に関する官民の多様なデータを、地図やグラフでわかりやすく「見える化」しているWEBサービスです。アプリやソフト、ユーザー登録は不要で、学校では地域探究や統計リテラシーを学ぶために使えるのではないのでしょうか。

サイトには9つのマップ(人口、地域経済循環、産業構造、企業活動、消費、観光、まちづくり、医療・福祉、地方財政)があります。それぞれに数種類のデータセットを用意しており、マップ、自治体、データの種類を選択すると情報が図表で表われ、CSVでのダウンロードも可能。自治体同士の比較や、時系列比較ができ、将来の人口推計を基に学校や公民館の数を計画したり、空き家マップを見てまちづくりの議論をするといったことが考えられます。

現在は、週次更新データを扱えるV-RESASというシステムも作っており、データは9種類(人の流れ、決済データ、POS、飲食店、宿泊者数、イベントチケット、検索数、求人情報、企業財務)と少ないですが、コロナの影響など直近の動きを見ることができます。

内閣府では実践者とさまざまな教科で使える教材を作りました。教員向けサイトでは実践発表動画も用意していますので、ご活用ください。



<https://resas.go.jp>

本サイトのほかに、実践発表動画や教材が掲載されている高校教員向けサイト「RESAS for teachers」「RESAS de 地域探究」もある

自ら実行しないこと。そして、実行したとしても、検証し修正する場面がない例があると言った。

大学で仮説の設定に苦しむ学生を見てきた浦崎先生は「科学的思考力に乏しいのです。吟味した仮説があり、検証し、プランを修正し、一連の思考過程を発表するのが探究であり、仮説の前提条件を洗い出すためには、関連する定量データにあたるのが基本」と強調する。

生徒の問いと地域の実状を結びつけるにはRESASが使える。過去からの変化や別の地域との比較を通して、生徒が見ているのが単なる「現象」なのか、そこに解決すべき「課題」があるのかが見えてくるのだ。登壇した教員からは「RESASで見つけた課題が、本当に住民にとつての課題なのかは、地域のひと話して更に考えることが必要」（吉澤陽先生／聖心学園中等教育学校）という声があった。

浦崎先生はまた「学校でやるなら教科・学問との結びつきが不可欠」であり、地域探究を諸科目と有機的に結びつけるべき、と主張。川崎先生と共に教材開発に関わった河合豊明先生（品川女子学院）は「RESASを使って地域を知るのが地理。分析し、正しいかを判断できる力をつけるのが数学、分析で見えた課題を解決するのが商業、

プロセスを説明するのが国語。各教科でやるのが難しいことは総合探究で、と授業案を作った」と説明した。

総合的な探究の時間は、教科・科目の力を必要に応じて活用するとされているが、難しさを感じている先生も多いのではないだろうか。地域データという横串を通すことで、生徒が探究課題と各教科の見方・考え方を結びつけやすくなる可能性が見える。

### 議論に必要なのは 論理と事実

有識者から「データと共に、生の声を聞くことで鮮やかに課題が浮かび上がってくる。人と会うことも大事」（讃井康智氏／ライフイズテック株式会社）。「知の宝庫である図書館の活用を」（平川理恵氏／広島県教育長）との示唆がある中、文部科学省の合田哲雄氏は「教育には意見の異なる他者と議論する経験を通じて、民主社会の基盤を作るといふ側面もある。議論に必要なのは論理と事実であり、RESASはその事実の束」と指摘した。

探究学習では、事実にあたることで根拠や仮説が強固になることも揺らぐこともあるだろう。また、新たな視点も生まれうる。データ活用の力をつけることは、活動あつて学びある、地域探究への第一歩となりそうだ。

## 「活動あつて学びなし」にしないため 商業科目や総合的な探究の時間で活用

前任校では地元の生産物を使ったおにぎりをイベントで販売するなど、積極的に地域と関わる実践をしてきた川崎先生。自身も地域創生に興味があり、5年前に参加した講演会でRESASに出会ったとき「これは授業に使える!」と取り入れ始めた。

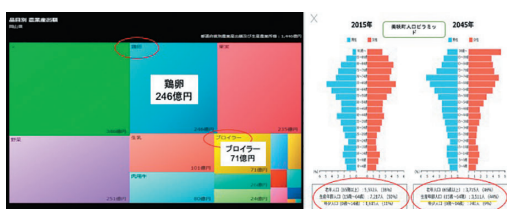
川崎先生は地域で販売実習や商品開発をするのが一部の生徒であることや、地域探究に客観性があまりないことに課題を感じてきた。「地域探究と教科、学問の結びつきを有機化する必要があります。“活動あつて学びなし”にならないように、地域という題材を科目や単元の狙いに紐付けようと思っています。そのときに使えるのが信頼性の高いデータ。数字で考えることは商業の基本です」と言う。

川崎好美先生  
岡山県立倉敷商業高校



実践例を挙げると、商業科目の「広告と販売促進」で行ったのが、データと実地調査を組み合わせて店舗の計画を立てる授業。生徒たちは消費動向や流入・流出人口のデータを使いながら立地や商品構成、店内レイアウトを考えた。「ビジネス経済」では、地域経済データからビジネス目的で来訪の男性が多いことに着目したビジネスプランが誕生。生徒たちが考えた「朝ご飯に商機あり」は、地方創生☆政策アイデアコンテストに提出し、最優秀賞を獲得している。

校内で理解が広がり、今では総合的な探究の時間のほか各科目でもRESASを使う単元を設けるようになった。基本的な操作を学びながら、自分で選んだデータを読み解き自分なりの見方をまとめ、発表するという内容だ（下図）。



**データを説明すると・・・**  
鶏卵やプロイラーなどの産出額が他県に比べて多い。これは岡山県美咲町の名産である「朝かけご飯」や「朝飯」が「朝」などが産出額に大きく関係していると考えられる。  
右の図をみると美咲町の人口はこれからどんどん減少していき、高齢化していくと考えられる。特に生産年齢人口は30年後には、老年人口と殆ど差がないという恐ろしいことになっている。

**私の見方・考え方**  
これから先、美咲町でプロイラーや鶏卵を作る人がいなくなると考えると、それにより岡山県全体の農業産出額が少なくなると考える。そうならないため若い人たちがもっと美咲町などに興味を持つべきだと考える。

RESAS活用の入り口として、自分で選んだデータを分析し、自分の見方・考え方をまとめる。この生徒は、地域経済循環マップから品目別農業産出額を取り上げて、人口動態と合わせ分析した。



地方創生☆政策アイデアコンテストで発表した「朝ご飯に商機あり」。来訪者データで40代男性が多いことに注目。ビジネス客へのインタビューで日中は時間がないことがわかり、朝食での起業を提案した。